

THE 茶内小 TIMES

令和4年(2022年)4月12日発行 VOL 2

学校経営の理念 ～学校にとってお客様は誰か～

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

前号では、今年度、本校が目指す「重点教育目標」である「子どもたち自身が育む資質・能力（自分のよさに気付く力、役立つ喜びを知る力、未来社会で活躍できる力）」についてお知らせし、保護者、地域の皆さんと、「重点教育目標」を共有し、連携・協働してその実現を図りたい、そのために、「チーム茶内小学校」に参画していただきたい旨をお伝えしました。本号では、「重点教育目標」を皆さんとともに、実現させるための「学校経営理念」について御説明します。なお、「学校経営理念」とは、「校長が学校経営を行うに当たって、根底にある根本的な考え方」と御理解ください。

まず、「学校経営の目的」を設定するに当たり、本校の学校教育目標を手がかりにしました。本校の学校教育目標は、「思いやりのある子」、「自ら鍛える子」、「進んで学ぶ子」ですが、子どもたちが社会の主役となる2030年代、2040年代（「先の見通しがもてない予測困難な時代」と言われています）の状況を踏まえ、「自分の足で立って、自分の頭で考え、他者と対話し協働できる子ども」としました。

次に、目的を実現させるための「学校経営の目標」の設定について御説明します。皆さんにとって、少し違和感のある質問になるかもしれませんが、「学校にとってのお客様は誰か」と問われたら、何と答えるでしょうか。子どもたち、これは言うまでもありませんが、教職員、保護者や地域の皆さん、町教委や役場の職員の皆さんなど、本校の教育に携わる全ての人たちであり、更に突き詰めていけば、それは社会ということになると考えます。なぜなら、社会で活躍できる十分な力を付けて、子どもたちを社会に送り出すことが学校の使命だからです。ここで言う「十分な力」とは、偏差値の高い学校に入れることでも、一流と言われている会社に就職させることでもありません。自分のよさを輝かせ、社会の中で役立つことを喜べる力です。主体的に社会にかかわり、よりよい社会をつくれる力をもった子どもたちの存在は、社会を幸福にします。そして、社会のために役立つ自分を実感できることで、子どもたち自身も幸福になります。そのような子どもたちが育つ学校をつくっていくことで、私たち大人は幸福になれると考えます。このような考え方から学校経営の目標を「個人と社会の幸福」としました。

4月1日の職員会議において、本校の教職員に、「この学校経営の目標を達成するためには、私たち大人が「責任ある行動をとる力『自律』」、「対立やジレンマを調停する力『尊重』」、「新しい価値を創造する力『創造』」の3つの力を身に付ける必要があります、そのベースになるのが「当事者意識」です。今後、各種の取組を進めるときに常に『自律』、『尊重』、『創造』、そして『当事者意識』を意識してください」と伝えました。

今後、本校の学校経営に参画していただく保護者、地域の皆さんにも、「当事者意識」をベースとした「3つの力」について御理解いただきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、今年度もたくさんの困難が待ち受けていることが想定されますが、自身の目標の実現に向かって、また、自身の課題の解決に向かって自走する子どもたちのよき伴走者として、「当事者意識」をもって各種取組や実践に挑戦したいと考えています。そして、茶内小学校を今以上に「子どもを育てる学校（大人が主語の学校）」から「子どもが育つ学校（子どもが主語の学校）」に変えていきたいと考えています。皆さんのお力添えをよろしくお願いいたします。

学校経営の理念【概要】

学校教育目標

- 思いやりのある子
- 自ら鍛える子
- 進んで学ぶ子

学校経営の目的（目指す子どもの姿）

自分の足で立って、自分の頭で考え、他者と対話し協働できる子ども

学校経営の目標

個人と社会の幸福

学校経営の目標を達成するためには、

- 自律：責任ある行動をとる力
- 尊重：対立やジレンマを調停する力
- 創造：新しい価値を創造する力

そのベースとなるのが、

当事者意識

子どもを育てる学校（大人が主語の学校）から
子どもが育つ学校（子どもが主語の学校）へ

